

令和４年度京都市地域リハビリテーション推進会議 摘録

日 時 令和４年１２月１９日（月） １４時３０分～１６時００分

場 所 京都市地域リハビリテーション推進センター 研修室

出者席 委 員：上原、加藤、市田、田中、木村耕、渡邊、徳島（木村奈委員代理）、
林、松倉（久門委員代理）、井上、須蒲、坂本、西尾

事務局：大塚企画課長、山口相談課長、中芝支援施設課長、
津島企画係長、林相談判定係長、小野田地域リハビリテーション推進係長、
高木高次脳機能障害支援係長、溝口機能訓練係長、渡辺企画担当

オブザーバー：京都府健康福祉部リハビリテーション支援センター 田中
京都市域京都府地域リハビリテーション支援センター 清水

【事務局】

只今から、令和４年度、京都市地域リハビリテーション推進会議を開催する。

本日は大変お忙しい中、お集まりいただき御礼を申し上げます。

昨年度は、コロナ対策を講じてのオンライン開催となり、今回が初の顔合わせの会議となる。よろしく願いたい。

初めに、当センター所長の西尾から御挨拶を申し上げます。

【事務局】

本日はお忙しいところを、京都市地域リハビリテーション推進会議にお集まりいただき御礼申し上げます。また、平素より、当センターの運営に御理解と御支援をいただき、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

コロナ禍で、一昨年度は書面での開催、昨年度はオンライン・Zoomでの開催、今年度は、３年ぶりに実地での開催を行うことができた。

平成２７年度に機能再編し、今年で８年目になる。身体障害のある方が、そして、脳を損傷した後の高次脳機能障害の方が住み慣れた地域で、その人らしく生きがいを持って生活していただける環境づくりを推進するための拠点として、様々な相談支援、研修、普及啓発に取り組んでいる。

一昨年度は、コロナ禍において多くの事業が中止へと追い込まれた。ただ、皆様の生活に密接に結びついている相談支援は継続して行ってきた。また、障害者支援施設の入所施設も、緊急事態宣言下においても、切れ目なく運営してきた。

また、昨年度はこのような感染状況に振り回されることなく臨機応変に、例えば地域リハビリテーション推進研修では、オンライン開催と実地での開催をハイブリッドで、また、例えば、高次脳機能障害の入門講座に関しては、YouTube と１週間限定のオンデマンド配信、

そして、これも実地でのハイブリッド開催、更に、ホームページや Facebook を通じた情報発信も行ってきた。

今年度は、障害福祉サービス事業所等訪問支援事業や、研修を多くの方に御参加いただいている。また、Zoom でのブレイクアウトルームを使った、いわゆるグループワークも行った。ただ、議論が深まるというところまではまだまだであるが、職員一同、力を合わせて、今後もいろいろ工夫を重ねてまいりたい。

このような、地域リハビリテーション推進というものは、保健・医療・福祉・介護・就労・教育など、様々な関係する皆様と連携し合いながら進めていくものと感じている。

取り組みや課題について、意見交換や情報の共有をお願いし、今後のセンターの運営に生かしてまいりたい。それでは、最後までよろしくお願いする。

【事務局】

本会議については、京都市市民参加条例に基づき、公開で開催することを説明。
また、委員改選後初めての会議となるため、委員及び事務局の担当を紹介。
その後、引き続き、上原委員に議長を、加藤委員に副議長を務めていただくことになった。

【議長】

次第の1「(1) 地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について」、事務局のほうから説明をお願いします。

【事務局】

資料に沿って、(1) 地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について報告。

質疑応答

【A委員】

総合支援学校の研修事業は今年はまだ半分。9月までの数値であるから。1校で6回だが、延べ22人、1回の人数がかなり少ない。これは、後どっかやるところで、支援学校によって受講者数が違うのか。

【事務局】

一定人数が出てくるのが少なくなったのと、コロナの関係で学校側も人数を絞っているということもあると思う。

【A委員】

コロナが関係しているのか。

車椅子の講習が始まったのは、事故が少しずつ増えてくるからであろう。講習によって、事故者数の増減はどうであるか。

【事務局】

全国的にみても、電動車椅子の事故がやはり増えている状況であり、踏切での事故が多いということで、京都市においても引き続き、電動車椅子講習会を実施してまいる。他都市のほうからも講習会をやりたいと問い合わせがあるので、またしっかり対応してまいりたい。

【B委員】

いろんな事業をきめ細かくしているのがよくわかった。

啓発のことで教えてほしいのだが、啓発事業の9ページ、Facebookを活用してというふうに言われていた。私どもの研修やPRをするときには、どんな風なのが効果的なのか、よく悩んでおり、これがどの程度の視聴・登録があるのか、効果的な点ではいかがか。

【事務局】

Facebookについては、我々も同じような悩みを抱いており、一定の効果はあるが、見に来ていただいている方が固定化しており、新規の方が増えてこないという状況である。その中で、例えば推進研修で来ていただいた方にチラシをお配りするとか、一番最後にQRコードを提示して、見てくださいという形での御紹介、或いは、事業所訪問をした際にPRするなど、少しずつではあるが普及啓発に努めているところである。

【A委員】

普及啓発というのはどの団体でも一番悩まれることではないかと思う。我々の団体でも、いつも聞いてほしいリピーターの方がいる。本当に聞いてほしいことがなかなか聞いていただけない。聞いていただくために努力はしているのだが、地道に広報活動をしていくしかないと思う。

【C委員】

リハビリセンターの訪問事業ですが、以前、私が生活介護事業（いわゆるデイサービスですが）に所属していた頃に、何度もお世話になった。リハビリセンターの職員には、利用者の身体の拘縮予防のためのストレッチ方法や食事の際に正しく座り誤嚥を防ぐなどの専門性のある支援を学んだ。同事業は、多くの事業所にとって専門性のある支援を学ぶ貴重な機会であり、障害福祉分野の現場では、他の業種から転職してこられる方も増加傾向であるので、今後の良き学びの機会として更に活用されることを願う。

あとは、もう一つ、言語聴覚士も派遣されているとのことだが、食事介助方法についても指導を受けられるのか教えていただきたい。

【事務局】

当センターに言語聴覚士がおり、食事の介助や誤嚥の防止など、そういったことを含めて支援させていただいている。また積極的に御活用いただければと思う。

【D委員】

6 ページのところの電動車椅子講習会。講習会もケアマネジャーも対象にさせていただいて非常にありがたいのだが、ちょっと参加人数が少し寂しいなあと。コロナの影響もあると思うが。より一層現場にあったやり方をするためにも、例えば、どんな事故が多いということ把握された上で実施しているのかというところを聞きたい。もう一つが 10 ページの 1 番上の、体力測定会とからだの相談会がとても面白いと思って見ていたが、単発で終わることがもったいないと思うのだが、こういうのがこうやった後に、どんな動きにこう繋がっていくっていうことを、何か想定しているのかとか何か働きかけをしているのかとか、その辺を教えてもらえればと思う。

【事務局】

1 つ目の電動車椅子講習会については、事故の情報も把握して、実際の事故の豊富な情報のある京都府警により講習をしていただいている。講習の最初に、京都府警の講師の方から御説明をいただいた後に実際に電動車椅子に乗っていただいているが、御説明の中でこういった事故が多いですよ、という御紹介をして、また実際の実技の場でも例えば、坂道の上り下りとか、或いは、踏切の渡り方みたいなことも、模擬コースではあるが、事故が起こりやすい環境と同じような状況を設定し、体験していただくという対応をしている。

2 つ目の体力測定会とからだの相談会は、継続してというところは重要だと思っている。また課題だと考えている。御参加いただいた方には、できるだけ丁寧に、結果を単に数値で示すだけでなく、こんな運動をしたらいいですよ、といった御紹介も含めてお伝えしており、例えばそれを見ながら毎日少しずつ運動をしていただいたらよいと思うし、数値が上がったということもあるので、そういったことを含めて対応していきたいと考えている。

【議長】

続いて、「(2) 高次脳機能障害者支援の実施状況等について」、事務局から報告をお願いする。

【事務局】

〔 資料に沿って、(2) 高次脳機能障害者支援の実施状況等について報告。 〕

質疑応答

【E委員】

一番最初に、事務局が言われた研修の事例も盛り込んで、これが非常に良かったというの

は、そのとおりだろうと思う。そして、先ほどの説明で、自閉症と判断されていた児童が、実際は高次脳機能障害だったと。そういう事例とか、怒りっぽいなという事例、それから復職したという好事例を、やっぱり一番伝わりやすく、そして重要であるので、リハエール等々を通して、もちろんプライバシーはデフォルメして、発信するということを御検討いただきたい。

それと、高次脳機能障害と発達障害と認知症、若年もあるので、この三つを掛け合わせて発信するという。特に認知症への住民の市民の思いというのは非常に地続きというか、私もなるかもわからない、或いは縁戚の方がということで、非常に関心が高いので、そこから発達障害、そして高次脳機能障害への理解が広まっていく。せんだって発達障害が、小中学校で、8.8%っていう数値が発表されていたが、これからまだまだ発達障害も、理解が広がっていくものと思う。それと関連して、やはり一番訴求力があるのは本人の訴え、これがやはり人の心の深部に入っていくので、ああそうだったのかという、もちろん、専門職の方のきちとした知識を踏まえてのことであるが、そういう本人の訴えと、先ほど御説明いただいた、市民向けの啓発である。端緒として、民生委員さんという話、これはこれでいいと思うが、例えばモデル的に小学校区で、一度、そういう本人も交えての、先ほど言われた発達障害、認知症も含めた理解啓発ということを一度やって総括してみるというのも一つかなと思う。意見なので参考にしてくだされば結構である。

【事務局】

貴重な御意見をいただき感謝する。

具体的な事例については、来年度以降も研修や会議等でできるだけ具体事例を出して、イメージがつきやすい形で進めていきたいと思っており、本人の訴えが一番訴求力があるのは確かにそのとおりである。私も実際、会議や研修で後ろで聞いていても、やはり、御本人のお話が一番グッと胸に来るものがあつたので。今年度の入門講座の当事者や御家族のお話についても、元々会場のみで開催の予定だったが、お運びいただけなかった方のために御了解を得て、オンラインでも配信する等で、できるだけ多くの方に聞いていただける工夫をしたところである。市民向けの啓発等についても、今後の参考にさせていただく。

【A委員】

私もE委員と同じところが気になっている。この推進会議が、いろいろ形を変えてきて、最後に高次脳機能障害に一番力を入れて、そして市民向けの活発な活動をやろうということになった。先ほどから聞いていると、やはり参加された方は非常に満足されているということは、非常によい会をしていると思うが。なかなか人数が増えていない。これが一番問題だと思う。やはり、これに力を入れようということで何か啓発をしないといけない。その中で今、E委員が言われたこととか、或いは当該者の家族の交流会、これは認知症の方であると、認知症家族交流会。それから入門講座が非常に好評で、たくさん出てきてくれる、それからよくわかる高次脳機能セミナー、この辺も充実させて、そして啓発していくということ

が非常に大事なことではないかというふうに話を聞いて感じた。そのためにいろいろ努力されていて、ああいう会でこの三つのことを中心に努力をしていただいているが、また少し方向を変えて、E委員が言われた、昔、リハビリテーション協議会で、健常者との交流会をやっていた。あの時には、学校の小学生や中学生を呼んできて、それを一緒に参加させたということをやっていたので、また何か機会があれば、そういう形のものを考えていただきたいと思う。

【事務局】

貴重な御意見をいただき感謝する。

本日頂戴した御意見を踏まえ、より一層充実した取組を進めてまいりたいと考えているので、引き続き御協力をお願いしたい。